

編集後記

本号は、「エンパワーメント」の用語をめぐる政治・社会思潮を検討する鈴木奈穂美さんと、バウハウス創始者ヴァルター・グロピウスの生涯を追う村上俊介さんの論考をお届けいたします。

利他的な献身に支えられて、弱者が権能を修めて我が身を高める。「エンパワーメント」にはそんな響きがある。しかし、それを逆手にとり、人々に自己実現の達成を要請し、一層の自己管理を強いる新自由主義。「利他的」の衣をまとったハイエナ。鈴木論文はそれを警鐘し、プラスサムを展望する。TV コマーシャル「あなたのためだから」…の画面が浮かんできました。

近代建築の理念と方法を発信した教育機関バウハウスの創始者ヴァルター・グロピウス。村上論文は、アイザークス(1983)を主資料に、バウハウスの2度の移転とその後の閉鎖にもかかわらず、イギリスさらにアメリカハーバート大学に移り、後進を輩出し、TAC と共同で近代建築を発信し続けたグロピウスの精力的な生の軌跡をたどった。

梅雨が各地に深刻な被害をもたらしています。経済、社会、環境、なんて fragile な国かしら、とおそれを感じる昨今。いよいよヴァカンス到来。野生の復権。 (ま)

執筆者紹介 (アイウエオ順)

鈴木奈穂美 経済学部専任講師

村上 俊介 経済学部教授

専修大学人文科学研究所月報

第 246 号 (2010. 7. 30)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 小山利彦